

研修報告書 No.15

県外病院初期臨床研修医

このたび地域医療研修として、2021年12月1日から12月27日までの1ヶ月間、高知県内の病院で研修をさせていただきました。今回の研修で学んだことをご報告させていただきます。

研修病院の所在地は、人口も少なく高齢化が市街地に比べても進んでいる地域です。私も実際に1か月間この地域で暮らしてみても、都内はもちろん高知市街地とも年齢層の違いが大きく、高齢化を身に染みて感じました。

研修病院は高知市街地から車で30分ほどの距離にあり、病院の所在する地域の中核病院として機能している病院です。病院では主に外来診療と病棟管理を行わせていただきました。一般外来での診療は今までの研修では経験したことがなかったため不安な気持ちもありましたが、診断や治療に悩んだ際はすぐに上級医の先生に相談できる体制を用意していただいたので、安心して外来診療が行えました。外来では一般的な風邪や腹痛、診断困難な不定愁訴など、大学病院ではなかなか経験できない患者さんを診せてもらうことができました。

入院が必要となった患者さんには、主治医として病状説明から事務的な作業、治療方針の決定、リハビリの要否、退院後の外来調整まですべてに関与させていただきました。その際も担当の上級医の先生が懇切丁寧に指導して頂いたため、病棟管理に関しても学ぶことがとても多かったです。ご担当いただいた上級医の先生以外でも、悩むことがあればすぐに相談でき、親身になって教えていただけました。私自身が外来で印象に残ったのは、下腿や顔面の浮腫を主訴に来院され、入院となった方です。50歳代の女性で、既往歴も特になかったためネフローゼ等の腎機能障害を考慮して検査を勧めたところ高度の貧血があり、貧血による心不全が原因で浮腫が起きていたということがわかりました。また、CTにて多発子宮筋腫を認め、貧血の原因として婦人科の先生とも治療方針を相談させていただきました。私は将来婦人科を志望しており、内科外来にて思わぬ形で将来志望する分野との関わりが出現し、とても驚きました。またそれと同時に症状と疾患を短絡的に繋げて考えてはいけないなど身の引き締まる思いもしました。

また、外科外来や小児外来の見学も行わせていただきました。外科外来では縫合や抜糸など、外傷や術後創部の処置をメインに経験させていただきました。外科手技の経験はあまりなかったため、外科の先生に丁寧に指導していただき大変貴重な経験となりました。小児外来は大学では見学することができなかったため、一般的な小児の診察を経験することができとても勉強になりました。

外来以外の時間では、救急対応や各種検査の見学等、比較的自由に行動させていただきました。

した。私は、腹部や心エコーを見学させていただくことや、症例発表でイレウスをテーマにしたため、イレウス管挿入や造影を見学させていただくことが多かったです。大学病院ではこういった検査や手技の見学はあまり行わなかったため、大変勉強になりました。

また、当直にも入らせていただきました。夜間の救急外来は、都内の病院とは状況がさらに異なり、限られた医療資源の中で診療を行わなければいけない環境でした。今まで、外来で提出していた検査項目も、より必要性を吟味しなければいけない状況で診察を行うという経験はあまりしたことがなかったため、印象に残っています。

週末は家族や友人を招いて高知県を中心とした四国観光を堪能することができました。水や空気がとてもきれいで都内ではなかなか味わえない自然を感じることができ、食事も何を食べてもおいしくとても有意義な週末を過ごすことができました。

1ヶ月という短い期間でしたが、研修病院での地域医療研修を通して、大学病院ではなかなか経験のできない多くのことを学ばせていただきました。

今回の研修をサポートしていただきました高知医療再生機構の皆様、研修病院の諸先生方をはじめスタッフの皆様には心より感謝申し上げます。1か月間大変お世話になりました、ありがとうございました。